

第 37 回合志市地域公共交通協議会 【会議録要旨】

〔日時〕平成 28 年 3 月 17 日（木）午前 10 時 00 分～

〔場所〕合志市役所 合志庁舎 2 階大会議室

〔出席者〕藤井勝公委員、緒方博詞委員、寺本秀信委員、森邦弘委員、
藤園直美委員、西郷節夫委員、塚本秀典委員、原田満恵委員、
小田原勝也委員、野田徹志委員、山野一平委員、小森田政憲委員、
新居唯一委員、片岡正和委員、富田一則委員、松野完治委員、
牛島光英委員、富加美尚悟委員、田中隆臣委員、

〔代理出席〕県北広域本部 福田恭久氏

〔欠席者〕重光重信委員、島川浩一委員、輪内良一委員、溝上章志委員、
金森大次郎委員、原啓二委員、林省吾委員、今村豊委員

〔事務局〕濱田政策部長、澤田企画課長、牧野課長補佐、吉田主査

〔議題〕

協議事項

（１）合志市地域公共交通網形成計画(案)について

その他

・試験運行バスについて

〔会議の公開・非公開の別〕 公開

協議事項（１）合志市地域公共交通網形成計画(案)について

～事務局から資料を説明～

藤井勝公会長：何か意見、質問はないか。

松野完治委員：68 ページの指標 2 の「コミュニティバス等の利用者数」が合計数となっているため、レターバス、循環バスなどモード毎に提示してみてもどうか。例えば、レターバスは利用者数が減ったが、循環バスは伸びているなどモード毎に分析でき、単に総合計だけでは分析が難しいと思う。また、今後のモード毎での取組みも提示しやすくなると思う。数字の出し方を工夫してみてもどうか。

事務局：検討し、再度見直すこととする。

原田満恵委員：また、グラフを見やすく変更してはどうか。

事務局：グラフについては、モード毎に色分けし、見やすい工夫をする。

松野完治委員：64 ページの現状分析（主な問題点）の 3 段目だが、「バス停の環境が悪い」「お出かけのニーズが乏しく、拠点機能が弱い

ため乗り継ぎの合間に用事を済ませたいというニーズにも応えられていない」の部分についての意味がよく分からない。
また、主な課題の 3 段目の「バスロケーションシステムの利用促進」とあるが、今後バージョンアップなどを考えておられるのか。

事務局：まず、ニーズ調査時の生の声をまとめたような形での記載をしている。再度表現を工夫し具体的に記載していく。

また、バスロケーションシステムについては、今後、利用促進の上で、システムの利用者のニーズに対応した形で必要に応じてはバージョンアップも検討していきたいと考えている。

塚本秀典委員：「バス停の環境が悪い」についてだが、ほとんどのバス停には屋根が無かったり、道路形状でデコボコな所などは、時刻表が見えにくかったり、道路幅員の関係で、車道スレスレの所があったりなど、たくさんの意見があったと思うので、是非、集約して記載していただくと同時に、改善も同時に行っていただきたい。また、バスロケーションシステムだが、端末の問題かもしれないが、使い勝手が悪いところがある。アクセス数のデータはあるのか。

事務局：平成 27 年の 6 月からのアクセス数のデータはある。内容としては日毎の件数が把握でき、現在件数は横ばい状態である。

藤井勝公会長：他に意見等はないか。今回の素案については、前回協議会の意見等を反映した上で提示した。また、本日の意見等を修正させていただき、今後の軽微な修正等については、会長一任としていただきたいが如何か。仮に大幅な変更が出た場合には、書面にて議決にて承認をいただく形になる。併せて承認をいただきたいが如何か。

各委員：承認

その他 ・試験運行バスについて

～熊本電気鉄道（株）小田原委員より資料を説明～

藤井勝公会長：何か意見、質問はないか。

緒方博司委員：エアポートバスだが、飛行機の発着時間に遅れることが心配になるが、遅延状況は如何か。

小田原勝也委員：ルートは渋滞発生が少ない箇所を通行しているため、現在のところ遅延は発生していない状況である。

山野一平委員：エアポートバスについては、県の取組み（補助金）にて運行されているのか。

小田原勝也委員：熊本県の交通政策課の事業であり、委託運行している。

山野一平委員：公共交通の取組みとしてはいい取組みだと思う。また、定額料金で一般利用者からすれば、いいと思うが、タクシー事業からすれば、空港利用客の年間売り上げが400万～500万円ある。県の予算もあると思うが、タクシーのことも考慮していただく様お願いしたい。

塚本秀典委員：せっかく実証実験として取り組まれているが、予算の関係上だと思うが、実験期間が非常に短いと思う。通常路線バスの定着まで3年間かかると言われている。この協議会の委員の方々については近隣の方をお誘いの上、出来るだけ、実際乗っていただきたい。なぜなら、実証実験で実績を残さないと次のステップに進むことが出来ない。現在の少ない利用状況を聞くと、実証実験で終わってしまう。乗ることによって色々な問題も見えてくるので是非乗っていただきたい。

また、タクシーの件だが、空港輸送について他県では、定額タクシーを走らせている業者もある。今後バスとタクシーの住み分けをどうして行くか国をあげて考えている状況。今後タクシー業も今後の公共交通にどう組み合っていくか非常に重要になってくる。研究も必要。

また、原水駅からセミコンへの路線のセミコン通勤バスの件についてだが、この路線については、結構乗っていると思う。前にも指摘したが、熊本方面からは原水駅の北側で降りる。ただ、原水駅にはICカードリーダーが南側にしかないため、一旦駅南側へICカードを読み込ませに行かなくては行けない。すると、電車から降りてバス乗車の間はかなり時間を要する。現在のダイヤでは、バスに乗車出来ないケースが起きている。かなり前だが、わざと1本前の電車に乗ってバスを利用している方が数人いた。特に、その時間帯は電車通行で遮断機が閉じたり、スムーズにバスに乗れないためである。カードリーダーの設置を北側へもするようJRへの改善をお願いしたい。当面の改善策としてはダイヤの改定で対応できると思う。また利用者から熊本電鉄に対してクレーム等はないのか。

小田原勝也委員：セミコン通勤バスについては、合志市、菊陽町、セミコンの企業との協議会の委託事業である。セミコンの協議会から逐一電車が遅れたからバスに乗ることが出来なかったなどの意見は伺っている。また、現状確認のため現場立会いも行っている。その都度乗務員に対して、駅からの降車人を確認してバス発車をするよう伝えている。

ただし、現状のダイヤの話だが、もともと交通量の多い渋滞発生箇所、渋滞解消を含めバスを運行しているため、ダイ

ヤに余裕を持たせられない。仮に発車を 5 分遅らせた場合、次の便に繰り込むため、ある程度割り切った運行をしている。また、極端に言えば、降車を急げば間に合うので、そういった面での従業員へのお願いもセミコン協議会を通じてお願いしているところ。

塚本秀典委員：3 月 26 日に JR のダイヤ改正が行われる。その際セミコン通勤バスもダイヤ調整があると思われるので検討していただきたい。

藤井勝公会長：他に意見、質問はないか。

各委員：特になし